

カツオ



生態的特徴等

【生態】

太平洋では熱帯～温帯水域、概ね表面水温 15℃以上の水域に広く分布しており、大型魚ほど熱帯域に分布する傾向がある。また、18℃が限界生息水温とも考えられており、水平的にも鉛直的にもこの水温によって分布範囲が制限される。分布海域の縁辺部である日本近海には 1 才魚の摂餌回遊群が来遊する。1.5 歳以上で約半数が成熟し、表面水温 24℃以上の海域で産卵が行われる。成長は早く、尾叉長は 1 歳で約 45 cm、2 歳で約 60cm になる（図 1）。寿命は 6 歳以上、最大尾叉長 100 cm、25kg くらい。

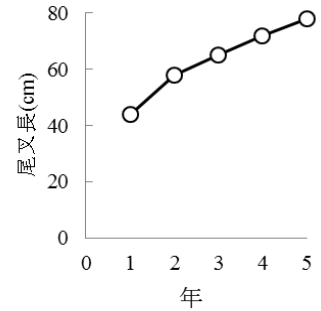


図 1 カツオの成長

動物プランクトン、魚類、甲殻類、頭足類を餌とするが、選択制は弱い。

【漁法と盛期】

主に、近海竿釣やまき網により漁獲される。本県海域では、初夏に北上する群、秋に南下する群の漁場が形成され、沿岸小型船の曳釣や、他県船の近海竿釣などにより漁獲される。

【利用】

EPA やビタミン D、鉄分を多く含む。刺身やタタキとして生食されるほか、缶詰やかつお節などの原料としても利用される。県の旬の魚（夏）に選定されている。

資源は過剰漁獲でも乱獲状態でもない

（水揚量）主要漁法による全国の水揚量は、H12～24 年までは増減を繰り返しながら 3～8 万トン前後で推移していたが、R7 年は 2 万トン弱に減少した（図 1）。

県内水揚量は減少傾向にあり、近年の漁獲量は非常に少ない（図 2）。

（水準と動向）カツオは、WCPFC において国際的漁業資源として管理されており、2022 (R4) 年に 2017～2020 (H29～R2) 年の資源状態は過剰漁獲でも乱獲状態でもないと評価された。次回の評価は 2025 (R7) 年。

水準



(WCPFC)

動向



(WCPFC)

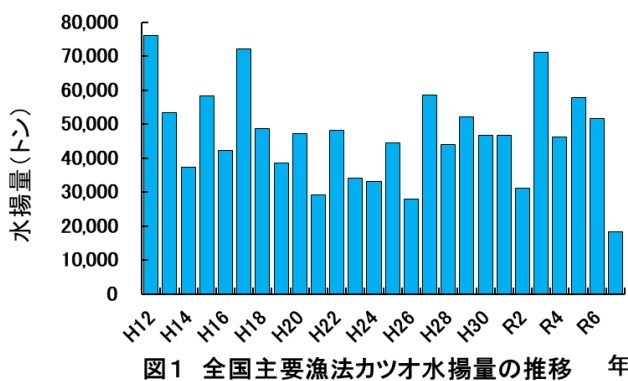


図 1 全国主要漁法カツオ水揚量の推移 年

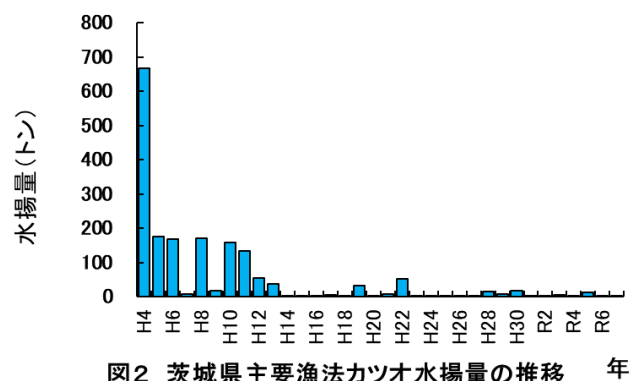


図 2 茨城県主要漁法カツオ水揚量の推移 年

【全国の水揚動向】

- ・ 静岡県が水揚量第 1 位。2 位は宮城県、3 位は東京都（R6 漁業・養殖業生産統計）

評価期間：平成 29 年～令和 2 年 更新日：令和 8 年 3 月 19 日

引用：青木良徳・津田裕一(2025)カツオ 中西部太平洋. 令和 6 年度 国際漁業資源の現況. 水産庁・水産研究・教育機構, 東京, 8 pp., https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_30_SKJ-WCPO.pdf.